

国際交流 もりおか

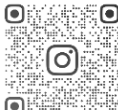
Morioka International Relations Association



ホームページ



フェイスブック



Instagram

[発行] 公益財団法人盛岡国際交流協会 〒020-8530 岩手県盛岡市内丸12番2号 盛岡市役所別館7階
 [TEL] 019-626-7524 [FAX] 019-622-6211 [URL] <http://www.mira-morioka.com/> [E-mail] info@mira-morioka.com

ありがとう盛岡！ ～カナダチームオリンピック事前キャンプ～

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に合わせて延期となっていた事前合宿が7月に盛岡で行われました。

カナダのビクトリア市と長年の姉妹都市交流がきっかけで、2016年12月に盛岡市はカナダのホストタウンに、2019年8月にはマリ共和国のホストタウンに認定されました。オリンピックの事前合宿を予定していたカナダの

ラグビーセブズとマリ共和国柔道代表は残念ながら来盛できませんでしたが、7月8日～20日まで水球カナダ女子が、7月21日～28日までスポーツライミングカナダが事前合宿を実施しました。水球は2018年に、スポーツライミングは2017年にも盛岡で合宿を行っており、両チームともこれが2回目の盛岡合宿でした。



水球カナダ女子チーム ～盛岡りんごのジュースと短角牛からパワーをもらいました！～

6月にハンガリーで行われた世界選手権を4位で終えたチームは新型コロナウイルス対策をしながら飛行機とバスを乗り継ぎ、50時間かけて盛岡に到着しました。ヘッドコーチは「**盛岡に帰って来られてよかった。このような状況下で受け入れてくれてありがとう。盛岡市民の誇りになれるように頑張りたい。**」、キャプテンは「**オリンピックを前に第二の故郷で練習できることはとてもありがたい。**」と熱意と感謝を述べていました。

新型コロナウイルス対策で自由な外出や市民との直接的な交流はできませんでしたが、小学生とオンライン交流を行ったり、サイン入りの写真ポスターをプレゼントしてくれたりするなど、コロナ禍でもホストタウンのレガシーとなるものを残してくれました。なお、オリンピックの成績は7位でした。



＜市内25校の小学生が折った千羽鶴を前に＞



スポーツクライミングカナダチーム 新種目！

スポーツクライミングは、ショーン・マッコール選手、アラン・アイップ選手、そしてアンドリュー・ウィルソンコーチの3名で事前合宿を行いました。3名とも施設（県営運動公園スポーツクライミング競技場）を大変気に入っており、「**リード、スピード、ボルダリングのウォールが揃ったとても恵まれた環境で、選手村入り前に調整することができてありがたい。**本番に近い屋外環境で練習できるのは最高！**ありがとう盛岡！**」と喜んでくれました。

オリンピックでは2人とも予選敗退でしたが、スピード競技では2人とも自己ベストを更新し、アランは7.99秒でカナダレコードを更新しました。

EVENT REPORT

今年度上半期、新型コロナウイルス感染拡大のため、協会の多くのイベントも中止や規模縮小が余儀なくされました。そのような厳しい状況ではありましたが、感染防止に配慮した新しい形式で「中学生スピーチコンテスト」を開催しました。

第19回中学生スピーチコンテスト



「世界に伝えたい MORIOKA～盛岡市の国際交流に私が提案すること～」をテーマに開催された今年度のスピーチコンテストは、感染症対策の観点から、オンラインでの開催となりました。事前選考を通過しスピーチコンテストへの出場権を得た参加者10名は、例年のような審査員や一般観客の前での対面スピーチは行わず、録画したスピーチ動画を審査員に提出し、審査員はそれを見て評価を行う形式となりました。

参加した中学生は、ビデオカメラの前でのスピーチという全く新しい形式に少し戸惑いつつも、一生懸命にスピーチをしてくれました。

なお、上位作品は11月初旬頃協会ホームページにて掲載予定です。是非一度ご覧いただき、未来を担う中学生の、盛岡と国際交流に対する熱い思いに、触れてみられてはいかがでしょうか。

盛岡には、世界に誇ることのできる自然や文化がたくさんあります！



INFORMATION

協会の様々な情報をお届けします

ボランティア制度リニューアル！

登録の方がより活動しやすい制度とするため、7月に活動区分等を見直し、登録情報の更新のお願いをさせていただきました。また、登録者向けにボランティア募集情報や国際交流企画、国際交流推進員のコラムなどを盛り込んだボランティア通信を9月よりメール配信にて開始いたしました。新規登録、登録情報の更新がまだの方はこちら⇒



ボランティア研修会 参加者募集！

ボランティア活動を希望する方を対象に11月13日、27日(土)に研修会を開催します。テーマは、『「やさしい日本語」入門～災害時の外国人支援～』。外国語を話せなくても、地域に住む外国人に伝わりやすい日本語でのコミュニケーションについて学んでみませんか。外国籍市民の方と実践練習もします。詳しくは広報もりおか10月15日号、または協会ホームページ(10月15日以降)で御確認ください。

在住外国人アンケートへの協力

8月6日から25日まで、盛岡市が在住外国人向けアンケートを実施しました。市が18歳以上の市内在住外国人全員を対象にしたアンケート調査を実施するのは初めてのことで、協会でもアンケート実施の協力をしました。

現在市には約1500人の外国人が在住しており、市と協会では外国人と日本人がともに暮らしやすい街を目指しています。回答は今後の市や協会の施策に活かしていくほか、結果は来年春に市のホームページに掲載予定です。



市のホームページや

SNSを通じた情報発信

盛岡カルタ→



タイムリーな情報をお届けするため、盛岡国際交流協会ではホームページやSNS(フェイスブック、インスタグラム)を通じた情報発信を行っています。例えば、盛岡市のホームページ上に、広報もりおかの抜粋記事の英語と中国語の翻訳文を掲載していますが、みなさん御存知でしょうか？

またフェイスブックやインスタグラムでは、外国籍市民向けのコロナ関連情報の発信や、多言語で盛岡の名所や名物を写真付きで紹介する「盛岡カルタ」の連載も行っています。皆さんも是非一度ホームページやSNSを覗いてみてください！

広報もりおかには、外国籍市民にも役立つ情報が数多く掲載されています。協会では、特に役立つような情報を毎月ピックアップし、やさしい日本語、英語、中国語にして盛岡市のホームページに掲載しています。QRコードをスキャンしてください→





コロナ禍のフランス 盛岡出身で現在パリでソムリエをされている竹林敬さんからのレポートです

僕は今パリのレストランでソムリエとして勤務しています。2009年にイタリアに渡り、2016年にパリに移りました。

コロナによる一年以上にわたる3度のロックダウンがようやく解け、街には少しずつですが活気が戻ってきました。厳しかったロックダウンのせいか、ぎすぎすしていた人たちが少し優しくなったような気がします。

美しい街路樹は「セイヨウボダイジュ」↓

竹林さんがお住まいのパリ11区にある、若者に人気のカフェ。ロックダウン明けはすぐに待ち侘びた人で溢れかえりました。パリジャンはテラス席が大好きだそう。



ワインの試飲にあつまる人々
(マスク無しですね!)



コロナ禍でも変わらぬ美しい流れを見せるセーヌ河



ただ、世界中からの来訪者が約9000万人というフランス、特に観光都市パリはかなりの影響を受けています。僕の働いているレストランの客層も今まではほぼ外国の方でしたが、今はパリジャンが多くなっています。

そんなパリジャンも地方に引っ越す人が増え、パリの人口減少がコロナでかなり加速されました。パリがかつての活気を取り戻すには、まだ時間がかかりそうです。

コロナ禍の花蓮市 花蓮市役所で友好都市業務を担当されている陳思豪さんからのレポートです

～コロナを乗り越えるための積極的な取組～

今年5月、台湾では新型コロナウイルス感染症が爆発的に広がりました。このため政府感染症対策センターは、5月19日に全国に警戒レベル3を発令し、人々に政策及び新しい生活への協力を求めました。これにより、学生のオンライン授業、社会人の在宅勤務、公共施設の封鎖などがスタートし、その結果、街はすっかり静かになってしまいました。しかし、私達の生活までもが停滞していたわけではありません。花蓮市では生活の変化に応じた様々な施策を打ち出しました。例えば、オンライン図書館を通じた市民の読書促進活動、市場へ来る買い物客の分散を図るための身分証番号による時間制限、屋台の小売り業者と協力しての野菜ボックス宅配活動等です。これらを通じて人々の要望の解決に努め、市民に安全で便利な買い物ルートも提供しました。



原住民族が栽培した野菜の宅配サービスを開始!

～イベント始めました!～

感染症の勢いが収まりつつあるなか、花蓮市は「奇萊*でひと夏遊ぼう」イベントを開催しました(*「奇萊」(チーライ)とは花蓮市の古い呼び方。現在は奇萊山連峰のことを指す)。このイベントの参加者は自転車ツーリングを通じて、花蓮の豊富な人文歴史の旅を体験しました。また、「海、それは私達の生活」と銘打ったイベントも開催し、海辺に設置したアート作品(動物のオブジェ)を通じて、来場者に海との対話を図ってもらいました。来場者はこの新鮮な試みをきっかけに、新しい生活の始まりへの期待に胸を膨らませていました。



花蓮は台湾の中でも特に人気のある旅行地です。是非みなさん、花蓮に旅行に来てくださいね。



Foreign Friends in Morioka

今回は当協会の活動にも積極的に参加して下さるタイ人留学生 2 名をご紹介します。お二人の素晴らしいアート作品は岩手大学国際課の Facebook でもみることができます(👉Iwate University International Office で検索)

お二人の略歴を教えてください



Supasumond Sopachitwatana さん タイ人
岩手大学大学院理工学研究科デザインメディア
工学専攻博士後期課程在籍中

盛岡のみなさん、こんにちは！私の名前はちょっと長いので、みんなに「ミントさん」と呼ばれることが多いです。現在は岩手大学大学院理工学研究科デザインメディア工学専攻博士後期課程に在籍しています。これまでにタイの大学でインテリアデザインの学士号、イギリスの大学で製品と空間の修士号を取得しました。タイの大学では講師も務めています。また、個人的にデザインの仕事も手掛けていました。



Pasu Charusiri さん タイ人
岩手大学大学院理工学研究科デザインメディア
工学専攻博士後期課程在籍中

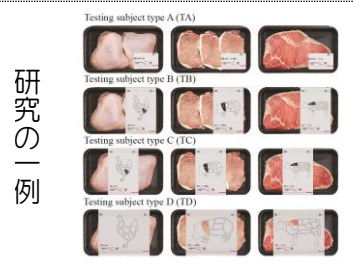
盛岡のみなさん、こんにちは！パスです。私は今、岩手大学大学院理工学研究科デザインメディア工学専攻博士後期課程に在籍しています。岩手大学に入学する以前は、タイで工業デザインの学士号を取得した後、アメリカの大学で建築の修士号を取得しました。その後はタイの大学でインテリアデザイン学部の講師を務めると同時に、建築デザインの仕事もしていました。

現在どのような研究されていますか？

私は非常標識について研究しています。従来の非常標識の中には、時として誤解を招いてしまうものがありました。この課題を解決するため、より正確に情報伝達が可能な非常標識について、アンケート調査などの手法を交えながら、研究を進めています。



私は、肉製品のパッケージに外付けラベルを追加することのメリットと、有益な情報が記載された内容表示ラベルが、品質に対する消費者の知覚に与える影響について研究しました。調査の分析結果は、消費者の注意が外付けラベルに多く向けられていることを示しており、製品の信頼性や価値、魅力に等に影響を与えることもわかってきました。



作品のインスピレーションはどこから得られますか？また、どのようにして作品を制作されていますか？

作品のインスピレーションは日本の伝統行事や岩手大学で開催されるイベントから得ます。アートとは、見る人に喜びと幸せをもたらすものであり、同時に、見る人自身にあなたもイベントの一部であると感じさせるものだと思います。私達にとってアート作品とは一つのメッセージを伝える手段でもあります。

なお、下の黒板に描いた作品は次のステップで制作しています。①インターネットと画像コレクションの両方から情報収集②i-Pad でデジタルスケッチの下書きを作成③デジタルスケッチファイルをクレヨンとマーカーによって大学の黒板に転写④作品にコメントをつけて完成。

作品ギャラリー



「新学期のボード！
～together through gather～」

新入生も在校生も、このボードを見たら新たな学期への期待に胸が高鳴りそうですね！タイ人留学生 4 名が協力して仕上げた作品です。



「アマビエのクリスマス」(2020 年冬)
コロナ禍という厳しい状況下でも、見る人を幸せにしてくれる作品。作者自身もお気に入りの渾身の作品です。



「Happy New year 2021
～ Here's to making more cherished memories～」

今年の干支である牛を描いた作品。牛の上のアマビエが見えるでしょうか？